

回復期リハ在宅復帰後の生活状況についてのアンケート調査  
～脳卒中患者の生活機能予後についての検証～

南東北春日リハビリテーション病院  
リハビリテーション科  
○樋口智美、坂本英樹、菊地美由紀、  
小松雅也、平野雄三

【はじめに】

回復期リハは、患者が抱える障害を回復させながら再び生活機能を再建し、在宅復帰・社会復帰する事が重要な目的である。適切な退院支援がなされない場合、身体機能低下や介護負担増大を招き、再入院や施設入所等を招く恐れがある。

適切な退院支援において重要な要素は退院後の生活機能を予測する事であり、今回当院を退院した患者を対象に、アンケート調査を通して退院後の生活状況を把握し、生活機能予後のあり方を検証した。

【対象・方法】

平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月までに当院に入院し在宅復帰した脳卒中患者 302 名に対し郵送によるアンケート調査を実施。得られた回答数は 136 名であった（有効回答率 45.0%、男 75 名、女 62 名）。検討内容は

- (1) 身体状況の改善の有無とその要因分析
- (2) 退院時から現在までの ADL 自立度の推移について調査分析した。

【結 果】

1. ①身体状況改善の有無

[良くなった（良好群）]：77 名（56.6%）

[変わらない（維持群）]：39 名（28.7%）

[悪くなった（悪化群）]：20 名（14.7%）

②要因分析（良好群／維持・悪化群）

有意差有り：外出頻度（ $p<0.01$ ）・移動能力（屋外・

屋内・車椅子・ベッド) ( $p<0.01$ )

有意差無し：年齢 ( $p=0.69$ )・性別 ( $p=0.85$ )

## 2. 退院時から現在までの ADL 自立度の推移

(退院時/現在) (名)

[移動]：屋外 (36/84) 屋内 (79/33) 車椅子 (16/14)

ベッド (2/6)  $p<0.01$

[排泄]：自立 (105/111) 介助 (28/22)  $p=0.34$

[更衣]：自立 (89/99) 介助 (39/33)  $p=0.32$

[整容]：自立 (94/108) 介助 (34/26)  $p=0.16$

[入浴]：自立 (54/71) 介助 (74/62)  $p=0.70$

### 【考 察】

退院後身体状況について改善した人の割合は維持も含め 8 割を越しており、当院の退院支援の一定の効果が確認された。中でも身体状況の良し悪しに影響を与える要因として移動能力と外出頻度が挙げられた。同様に ADL 能力においても移動能力のみが改善しており、移動能力の程度が生活機能予後に大きく影響を与える結果となった。特に移動能力は閉じこもりなどの行動レベルの予測も含めて検証する事が重要と考え、環境要因等も踏まえながら包括的な生活予後設定が必要と思われる。